



遼寧省文物考古研究所との国際共同研究

本年度は11月に遺跡踏査と遺物調査を実施。遼寧省西部の北票市に所在する三官営子遺跡を踏査（写真上）。遼寧省文物考古研究所での遺物調査は、金嶺寺遺跡出土軒瓦の実測・拓本（写真下左）や、大板営子遺跡出土土金属製品の調書作成・撮影・実測をおこなった（写真下右）。

本文 14 頁参照（撮影：栗山雅夫）

西トップ遺跡南祠堂の解体と調査

西トップ遺跡は現在南祠堂の解体修復を継続中である。最下段の基壇外装石列 N25 が解体され、掘込地業堀方が検出されている。掘込地業の中に十字形を基本とする石列が検出された。造営の基準線を表示する、版築の土留などの可能性が考えられる。また掘込地業の南辺からは3群の土器埋納遺構が検出された。

本文 18 頁参照（撮影：杉山 洋）





三徳山三佛寺の勝手権現像

今回見出された銘文により、室町時代の天文11年(1542)作と判明。本例は衣冠騎馬像に作るが、もう1軀、甲冑騎馬像も存在し、そちらは大永3年(1523)作の銘がある。修験道で勝手権現とは、蔵王権現・子守権現とあわせて三所権現と称される存在だった。しかし神仏分離の影響で、実体は不明な点が多い。今回の2軀の勝手権現は文献より、三徳山の勝手宮(現文殊堂)に安置されていた神像と推定できた。

本文 46 頁参照 (撮影: 中村一郎)

宮城県追戸横穴墓出土トンボ玉

宮城県涌谷町に所在する追戸横穴墓群A地区1号墓から斑点紋のトンボ玉が出土している。今回、X線CT撮影による製作技法の推定ならびに蛍光X線分析法やX線回折法による材質調査を実施した結果、本資料は地中海周辺から西アジア等の西方地域で製造された可能性が高いことがあきらかになった。写真左は上面、中央は下面、右は側面の顕微鏡写真。

本文 38 頁参照 (撮影: 田村朋美)



5 mm



5 mm



5 mm



「佐渡相川の鉱山都市景観」全覧図

金銀の鉱脈はひとを魅了し、海と山の狭間の土地に多くのひとを呼び寄せた。段丘上の鉱山町や物資の流通等で栄えた海辺の商いの町や職人町、さらには町場に食糧を供給した農漁村部。これらが一体となって社会を形成したのが鉱山都市 相川である。段丘面の巧みな土地利用等が今も受け継がれている。

本文 72 頁参照 (作画：北野陽子)

塩尻市平出伝統的建造物群保存対策調査

長野県中央部に位置する塩尻市の平出集落には、「本棟造」と呼ばれる、江戸時代後期から明治時代初期にかけて建てられた伝統的建造物群が残る。集落内を小河川が蛇行しながら貫流し、各所に設けられた水汲み場兼洗い場を介して、現在でも水と深く関わりながら人々の生活がいとなまれている。

本文 60 頁参照 (撮影：杉本和樹)





甘樫丘東麓遺跡の調査 (飛鳥藤原第 177 次)

南東に開く小規模の谷の調査。7世紀前半に斜面を削り、谷を埋め立て平坦面を造り、7世紀中ごろまで利用していたことがあきらかとなった。北東から。

本文 104 頁参照 (撮影：中村一郎・井上直夫)

藤原宮朝堂院朝庭の調査

(飛鳥藤原第 179 次)

朝庭の礎敷広場、礎敷上から掘り込む東西方向の柱列などを検出。東西柱列は、長さ 53 m 以上におよぶ。礎敷下層では、隣接する大小複数の沼状遺構を確認した。中央奥の森は大極殿跡。右奥は耳成山。南東から。

本文 82 頁参照 (撮影：栗山雅夫)



藤原京左京五条三坊の調査

(飛鳥藤原第 178-3 次)

藤原京左京五条三坊の西辺中央部で、東二坊大路東側溝および五条条間路南北側溝と推定される溝を検出した。写真中央やや左で手前(東)から奥(西)に向かう溝が五条条間路南側溝に比定される東西溝 SD11193。調査区中央付近で東二坊大路東側溝に比定される南北溝 SD11190 と「T」字形に接続する。東から。 本文 96 頁参照 (撮影:井上直夫)



キトラ古墳の調査

(飛鳥藤原第 173-8 次・第 178-6 次)

石室南側の柱穴 SX504・505 で柱痕跡を確認した。柱の太さは 10cm 前後に復元できる。コロレール痕跡との重複関係から、石室閉塞後に柱を立てたことがわかる。墓道埋め立て直前の墓前祭祀に関わる可能性がある。南から。

本文 116 頁参照 (撮影:井上直夫)





平城宮東院地区の調査（平城第503次）

奈良時代の掘立柱建物、塀、溝、土坑、壇状遺構を検出した。調査区東南で検出した回廊 SC18916・SC19600 は、南北方向から東西方向へと曲がり、東院6期中枢施設群の北西隅にあたるのが判明した。西から。本文130頁参照（撮影：中村一郎）



西大寺旧境内の調査（平城第505次）

西大寺薬師金堂から西へ延びる軒廊と西面回廊の礎石据付穴や雨落溝などを検出した。西大寺金堂院の規模を知る手がかりが初めて得られた。西から。本文144頁参照（撮影：中村一郎）

西大寺旧境内の調査（平城第521次）

西大寺金堂院東面回廊の基壇、礎石据付穴、雨落溝などを検出した。西雨落溝はここから西へと曲がり、北面回廊南雨落溝に接続すると想定される。北東から。本文152頁参照（撮影：中村一郎）



興福寺西室の調査 (平城第 516 次)

西室大房は南北約 62.7 m、東西約 17.8 m、桁行 10 間、梁間 4 間に復元される。また、西側に並行する梁間 2 間の南北棟掘立柱建物を検出し、小子房にあたる可能性がある。北から。本文 179 頁参照 (撮影：中村一郎)



平城京左京二条二坊十五坪の調査 (平城第 514 次)

D 区の全景写真。西寄り (写真奥) で検出した奈良時代の掘立柱建物 SB10393 には柱が残る。東半 (写真手前) は室町時代後半の溝がめぐる。東から。本文 167 頁参照 (撮影：杉本和樹)

第 514 次調査で出土した三彩瓦

F 区を中心に、64 点の施釉瓦が出土した。

本文 167 頁参照 (撮影：中村一郎)



図版 8



薬師寺十字廊の調査（平成第519次）

十字廊は、東西廊が桁行11間、梁行1間、南北廊が桁行4間以上、梁行1間、その規模は東西41.7 m、南北14.5 m以上であることがあきらかになった。北東から。

本文 191 頁参照（撮影：栗山雅夫）

北拡張区の全景

北拡張区では、十字廊の北方に位置する石敷通路 SX3110 と、その延長上に位置する礎石建物 SB3101 が検出された。北西から。

本文 191 頁参照（撮影：栗山雅夫）

南北廊の基壇と基壇外装

南北廊南半では、凝灰岩の羽目石と川原石敷の雨落溝が検出された。基壇の幅は8.3 m。南東から。

本文 191 頁参照（撮影：栗山雅夫）

